

## こども病院ボランティア養成から活動に至るまで

病児を抱える親の会の夢であった「こども医療センター」が10年間の様々な運動と、県民20万の署名に後押しされ、建設が決定、2006年4月開院しました。当会では病院開院時にボランティア活動ができるようにしたいと、開院の前年（2005年）に第1期ボランティア養成講座を開講し準備をすすめました。そして、開院時に活動をスタートし現在に至っています。

### 《病院ボランティア活動とボランティア室設置に至る背景》

県外のこども病院等でボランティアの支援を体験した母子総合医療センター設立推進協議会（NPO法人こども医療支援わらびの会の前身）の親たちの強い思いは、こども病院にはボランティアが必要、全国のこども病院では病院ボランティアは「こども病院」の機能の一つとして位置づけが明確化されていると要請、沖縄のこども病院でもボランティア活動とボランティア室の設置について県や県議会に何度も要請書を提出しました。

また、新聞投稿やシンポジウム、勉強会を開催してボランティアが「こども病院」に不可欠であることを訴え、ボランティア室の設置が決定されました。病院設計の段階から親たちの意見を反映させていただき、こども医療センターの一番目立つ場所にボランティア室が配置されました。ボランティア室は、専任のコーディネーターが常駐してボランティアがいつでも活動でき、子どもや親たちが気軽に相談できるように（ピアサポート活動）、わかりやすい場所で広さも考慮した部屋になるように、と病院設計業者・県担当者とは何度も協議を繰り返し平面図がつけられました。

### 《病院ボランティア養成講座の内容検討》

2003年8月、「病院ボランティア」養成についてのワーキンググループを立ち上げ、ボランティア室の運営やボランティア活動が開院時よりスタートできるように準備をすすめました。座長に藤村真弓教授（当時県立看護大学）、委員は協議会の各団体から選出して「病院ボランティア」の勉強会をスタートさせました。

ボランティアの基本方針に「個人の自由意志のもと、患者とその家族に対する医療行為以外の支援活動を義務と責任をもって行うもの」、目標に「温かな雰囲気のもとに、患者に喜ばれやりがいのある活動」を掲げ、審議検討を重ね病院ボランティア養成講座の内容（案）を作成しました。その間に県外から講師を招いてシンポジウムや講演会を開催して病院ボランティア立ち上げの実践や活動の実際について学びました。

### 《第1期こども病院ボランティア養成講座開講》

2005年3月、第1期こども病院ボランティア養成講座の募集を行いました。50名の募集に対し、116名の応募があり110名が受講しました。県民の病院ボランティア

への関心の高さに驚きました。第1期講座は2005年5月より開始され、以来講座は毎年継続して開講し、講座修了生には、わらびの会理事長より修了証が交付されています。

#### 《ボランティア活動スタート》

第1期こども病院ボランティア養成講座終了後の2006年3月から7月にかけて、ボランティアワーキングチームを立ち上げ、活動に際してのボランティア規定・規約・心得・マニュアルなどを作成しました。2006年4月6日のこども医療センター診療開始日には第1期修了生が外来での活動を開始、病院が少し落ち着いた6月12日から継続した活動に入りました。第2期講座終了後から小児病棟での活動も始めました。



病院ボランティア勉強会（2007年03月）

#### 《ボランティア室移動》

2009年4月突然、ボランティア活動の拠点であるボランティア室移動依頼の話が病院長よりありました。寝耳に水の話に当会はびっくりしました。ボランティア室設置から活動へ至る経緯と現状をまとめ、大久保和明病院長（3代）へ提出しました。病院長は真摯に受け止めて下さり、6月25日、わらびの会役員とボランティア室移動について話し合いました。地域連携室を強化するという病院の運営上の問題が大きく迫り、小児医療を支援する目的の当会は協力して2009年8月11日にボランティア室と地域連携室とを交代して現在のボランティア室となっています。

#### 《課題とその解決に向けて》

病院ボランティア活動の全てが双方にとって初めてのことであり、多くの問題と課題がボランティアから報告されました。それを受け、わらびの会では安次嶺馨病院長（初代）に問題の早期解決をお願いしました。早速、検討会をもって下さり、問題に対する回答を頂きました。その中で具体的な検討は運営委員会を設置して行うことになり、ボランティア運営委員会の設置が決まりました（2006年9月15日）。委員には病院長、母子センター長、小児科医、コーディネーター、わらびの会、ボランティア等とすることが決まり

ました。

2006年12月22日に第1回病院ボランティア運営委員会が開催され、委員会規定案が検討された結果「委員会は四半期ごとに開催する。委員会の下に小委員会をつくり日々の問題点等を検討させる。小委員会はボランティア代表者とコーディネーターがざっくばらんに話し合えるような会とする。そこで解決できない問題については運営委員会にあげて検討する。」等が決まりました。規定によりボランティア運営委員会、小委員会は定期的  
に開催されるようになり、ボランティア活動における諸々の課題が解決へ向かいました。

#### 《委嘱状交付》

2008年9月より病院長からボランティアへ委嘱状が交付されました。ボランティアに対する理解と協力体制が深まりボランティアにとって大きな励みとなりました。

## こども病院ボランティア養成講座

2005年3月に第1期こども病院ボランティア養成講座が開講されました。第2期までは年1回開講、第3期から年2回（8月・2月）となり今年（2015年2月）第18期講座が開講されました。

「こども病院ボランティア養成講座」受講者活動状況 [2015年2月現在]

(単位:人)

	開講年	受講者数	修了者数	登録者数	活動に入 った人	現在の 活動者
第1期	2005年	110	73	26	26	7
第2期	2006年	45	18	17	9	3
第3期	2007年	13	12	11	11	2
第4期	2007年	34	20	16	20	3
第5期	2008年	13	11	11	4	1
第6期	2008年	20	4	7	5	4
第7期	2009年	7	4	4	3	1
第8期	2009年	32	22	22	14	4
第9期	2010年	22	22	15	14	9
第10期	2011年	24	24	9	9	8
第11期	2011年	35	20	14	13	8
第12期	2012年	24	14	8	8	8
第13期	2012年	30	30	7	7	7
第14期	2013年	26	20	5	5	5
第15期	2013年	23	21	9	9	2
第16期	2014年	24	23	9	9	8
	2014年	30	29	10	7	6
	合計(人)	512	367	200	173	86

＜活動状況＞	
活動場所:	小児外来・小児病棟(4・5階)/ボランティア ショップ「ぶれば」(水・土)
活動内容:	折り紙、絵本の読み聞かせ、ぬりえ、つみき遊び、外来の案内、 患児検査・入院時のきょうだいの見守り、保護者の話し相手、 患児の預かり(保護者がトイレや支払い、売店等へ出向いた時など)、 行事への参加協力(こいのぼり掲揚式、病棟夏祭り、クリスマス会他) プレイルーム整理整頓、院内(中庭)散歩、壁画作成・掲示 南部医療センター・こども医療センター 職員研修会への参加、 プレパレンジャー勉強会参加、ボランティアミニ勉強会開催 インフルエンザワクチン接種の対応応援(成人・小児外来) ボランティア ショップ「ぶれば」の運営
活動日:	月曜日～金曜日 09:00～16:00 それぞれの活動時間 1時間～4時間
登録人数:	63人 (H26年12月現在) / 男性9人 女性54人
活動人数:	小児外来 35人 小児病棟(4階、5階) 6人 ※4人 ボランティアショップ活動含む

## こども病院ボランティア活動の支援